

# かほく市議会 総務建設常任委員会 視察報告

## 【研修日程】

令和元年10月2日（水）～4日（金）

## 【視察研修先及び内容】

1. 鹿児島県南九州市：「文化遺産を生かした観光事業の取り組み」について
2. 鹿児島県指宿市：「農業者、農業団体への支援制度」について
3. 熊本県宇土市：崇城大学との連携協力に関する協定に基づく「宇土市のまちづくり提案事業」について

## 【参加者】

総務建設常任委員長	竹内	幹雄
副委員長	野田	稔彦
委員	寺内	照雄
	杉本	正一
	丸井	一範
	塚本	佐和子
議長	安達	肇
随行	森	益啓

---

## 「文化遺産を生かした観光事業の取り組み」について

(鹿児島県南九州市)

南九州市は、薩摩半島の南部に位置し、鹿児島市の南西約40キロメートルのところにあり、人口約3万5,000人、面積は約360平方キロメートルであります。

南九州市知覧は太平洋戦争の特攻隊の出撃基地であったことから、基地跡の一角に知覧特攻平和記念会館を設置したとのことであります。

なお、平成30年度の来館者は、約40万人とのことであります。

広報活動としてJRの鹿児島中央駅、広島駅、東京モノレール浜松町駅での電照看板広

告で告知し、さらに九州管内の観光連盟に企画を出し売り込みを行い、大都市部での説明会に参加し、人脈を作り、さらに売り込みをかけるなどの工夫をしておりました。

また、新たな取り組みとしては、修学旅行生を対象とした「知覧からの手紙」と題し、知覧郵便局の消印を押したものを生徒から親に送るものであり、親も平和学習を学ぶことができ大変好評とのことでありました。

本市においても、文化遺産と観光事業を結び付けている点では、共通しており、来館者を増やすための積極的な取り組みは、参考になるものと感じました。



---

## 「農業者、農業団体への支援制度」について

### (鹿児島県いぶすき指宿市)

指宿市は、薩摩半島の最南端、鹿児島湾から東シナ海を臨む海岸線を有し、豊富に湧出する温泉に恵まれております。

産業は、観光、農業及び水産業が主体であり、人口は約4万人、面積は約149平方キロメートルであります。

指宿市の農業は、温暖な気候や豊かな台地、池田湖からの広域にわたる灌漑用水を活かし、オクラ、豆類、花木など質の高い農産物を生産し、オクラ、そらまめ、スナップエンドウについては、生産量が日本一とのことであります。

農業に対し、国、県の支援制度のほかに市独自のものも多くあります。

一例を申し上げますと「いぶすき農業支援センター」であります。当施設は、農業者等への利便性向上、県やJAなど関連機関の強化を図るために開設されたものであります。

新規就農相談等で各組織が連携し助言活動を行い、農業関係者のワンストップサービスに寄与しているとのことでありました。

次に、「頑張る農業者・研修支援事業」であります。

この制度は、6次産業化を目指している「やる気のある農業者」への先進地研修を支援するものであります。

次に「農業後継者新規就農奨励金制度」であります。

この制度は、有能な人材育成及びその確保を図ることを目的とし、就農時40歳以下で市内に住所を有し、新たに専業として就農したものに5万円を交付する制度であります。

家業を継ぐ者、U・I・Jターンなどで新たに就農する者も対象であり、今までに多くの方々が利用したとの説明でありました。

このように、指宿市では、農業者に対し、さまざまな支援があり、基幹産業である農業に力を注いでいると感じました。



---

崇城大学との連携協力に関する協定に基づく「宇土市のまちづくり提案事業」  
について

(熊本県<sup>うと</sup>宇土市)

宇土市は熊本県のほぼ中央、熊本平野の南部に位置し、熊本県内における交通の要衝となっております。

人口は、約3万7,000人、面積は約74平方キロメートルであります。

平成18年に当時の市長が大学の先生と知り合いであったことから、熊本市にある<sup>そうじょう</sup>崇城大学と連携協定を結んだとのことであります。

市は、職員のスキルアップ、大学は、研究政策を行政政策へ反映させる実践の場と位置付けし、協定を提携したとのことであります。

市のまちづくりとしては、大学の建築学科3年生を対象とした前期の演習があり、「地域を元気にするにはどうすればいいか」を学生がチームを組みまちなかを歩き、住民と対話しアイデアをまとめるものであります。

しかし、提案が実施された例がこれまでに無いことから、今後は、提案の仕組みを見直しするなど、具現化できるような工夫を行っていくとのことであります。

本市においても、本年7月に金沢学院大学及び短期大学と包括連携協力に関する協定を締結しております。

地域社会の活性化のために様々な課題を大学と地域が連携し解決していく仕組みづくりが大切であり、参考になるものと感じました。

